

ESA に部分的な設定をインポートする方法か。

目次

[はじめに](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[設定](#)

[概要](#)

[背景説明](#)

[設定](#)

[省略されたタグ vs 空にしてください](#)

[文字セット エンコードについての注](#)

[確認](#)

[関連情報](#)

概要

この資料に E メール セキュリティ アプライアンス (ESA) に (XML) コンフィギュレーション ファイルの部分を eXtensible Markup Language (XML) アップロードする方法を記述されています。

前提条件

要件

次の項目に関する知識が推奨されます。

- eXtensible Markup Language (XML) (XML)
- E メール セキュリティ アプライアンス (ESA)

使用するコンポーネント

このドキュメントは、特定のソフトウェアやハードウェアのバージョンに限定されるものではありません。

本書の情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、初期 (デフォルト) 設定の状態から起動しています。対象のネットワークが実稼働中である場合には、どのような作業についても、その潜在的な影響について確実に理解しておく必要があります。

注: この資料はアップロードすべき設定が AsyncOS 同じバージョンからあると仮定します。

設定

概要

ESA は得られるあらゆる時点か他のどの ESA からでもコンフィギュレーション ファイルをインポートすることを可能にします。

[ESA に関する FAQ：新しいアプライアンスに設定ファイルをインポートするにはどうしますか](#)

全体のコンフィギュレーション ファイルの代わりに設定の部分だけインポートすることは便利であるシナリオに出会うことができます。

- レクリエーション
- 機能テスト
- 多数のエントリを特定の設定にすぐに追加する方法

背景説明

3 つのメソッドの 1 つで情報をロードできます：

- 情報を設定ディレクトリに置き、それをアップロードして下さい。
- ローカル コンピューターからのコンフィギュレーション ファイルを直接アップロードして下さい。
- 構成情報を直接貼り付けて下さい。

方式に関係なく、設定の上でこれらのタグを含んで下さい：

```
<?xml version="1.0" encoding="ISO-8859-1"?>
<!DOCTYPE config SYSTEM "config.dtd">
```

```
<config>
```

```
... your configuration information in valid XML
```

```
</config>
```

閉じる `</config>` タグは構成情報に続く必要があります。XML 構文の値は Cisco 内容セキュリティ アプライアンスに設定ディレクトリにある DTD に対して解析され、検証されます。DTD ファイルは `config.dtd` と名付けられます。loadconfigcommand を使用するとき認証エラーがコマンド・ラインで報告されれば、変更はロードされません。それらをアップロードする前にアプライアンスの外のコンフィギュレーション ファイルを検証するために DTD をダウンロードできます。

設定

コンフィギュレーション ファイルのサブセクションをインポートするために、サブセクションが完了した、ユニークであるために必要となり、上記の宣言タグが含まれる、また `<config></config>` の内である必要があります。

DTD によって定義されるようにある特定のサブセクションのための全体の開始するおよび終了タグが含まれていることを意味します完了して下さい。たとえば、次のコードをアップロードするによりまたは貼り付けることは認証エラーを引き起こします：

```
<?xml version="1.0" encoding="ISO-8859-1"?>
<!DOCTYPE config SYSTEM "config.dtd">
```

```
<config>
<autosupport_enabled>0</autosu
</config>
```

ただし、このコードを、それ引き起こしません認証エラーをアップロードするか、または貼り付けて下さい:

```
<?xml version="1.0" encoding="ISO-8859-1"?>
<!DOCTYPE config SYSTEM "config.dtd">
```

```
<config>
<autosupport_enabled>0</autosupport_enabled>
</config>
```

アップロードされるか、または貼り付けられるコンフィギュレーション ファイルのサブセクションが設定のために曖昧ではないことをユニーク意味します。たとえば、システムは 1 ホスト名だけある場合があります従ってこのコードを (を含む宣言および `<config></config>` タグ) 割り当てられますアップロードして下さい:

```
<hostname>mail4.example.com</hostname>
```

ただし、システムは定義される異なる受信者のアクセス表と、それぞれ定義される複数のリスナーがある場合があります従ってアップロードはこのコードだけ曖昧考慮されます:

```
    <rat>
      <rat_entry>
<rat_address>ALL</rat_address>
<access>RELAY</access>
</rat_entry>
</rat>
```

それは曖昧であるので、それが完全な構文であるのに、許可されません。

注意: コンフィギュレーション ファイルのコンフィギュレーション ファイルがサブセクションをアップロードするか、または貼り付けた場合、保留中であるかもしれないコミットされていない変更を消す可能性がある。

省略されたタグ vs 空にして下さい

コンフィギュレーション ファイルのセクションをアップロードするか、または貼り付けた場合注意して下さい。 タグを含まない場合、設定の値はコンフィギュレーション ファイルをロードするとき修正されません。ただしエンプティータグを含んでいれば、そしてコンフィギュレーションの設定はクリアされます。

たとえば、次のコードをアップロードすることはシステムからすべてのリスナーを取除きます:

```
<listeners></listeners>
```

注意: コンフィギュレーション ファイルのサブセクションをアップロードするか、または貼り付けた場合、GUI か CLI からあなた自身を切り離し、多量のコンフィギュレーションデータを破棄できる。管理ポートの別のプロトコル、シリアルインターフェイス、または

デフォルト設定を使用してアプライアンスに再接続できなければ場合このコマンドでサービスを無効にしないで下さい。また DTD によって定義されるように正確なコンフィギュレーションシンタックスの不確実である場合、このコマンドを使用しないで下さい。新しいコンフィギュレーション ファイルをロードする前にコンフィギュレーションデータを常にバックアップして下さい。

文字セット エンコードについての注

XML コンフィギュレーション ファイルのエンコーディング属性はオフライン ファイルを処理するのに使用することができる文字セットに関係なく「ISO-8859-1」である必要があります。エンコーディング属性はファイルで `showconfig`、`saveconfig`、または `mailconfig` コマンドを発行する時はいつでも規定されます:

```
<?xml version="1.0" encoding="ISO-8859-1"?>
```

確認

修正された機能または設定のページにナビゲートして下さい。

関連情報

- [ESA に関する FAQ : 新しいアプライアンスに設定ファイルをインポートするにはどうしますか。](#)
- [コンフィギュレーション ファイルの管理](#)